

創刊10周年!

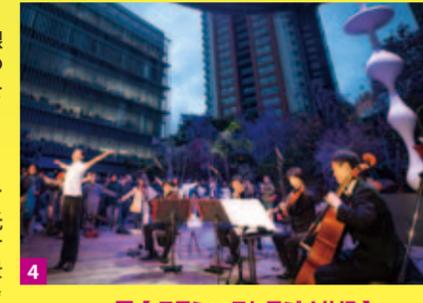
麻布地域の人々が取材 編集する地域情報紙



**1 【六本木夜舞場(ろくほんもくやまいば) Vol.4 (真夜中の盆踊り)】**  
アートナイト恒例、長閑なウクレレサウンドに合わせて、『こんな まあ夜中に盆踊り…大きな音は出せません』と歌って踊る盆踊り。会場の六本木ヒルズアリーナではメインプログラムの、液体が滴となって流れる形状をデザインした“Ether”(エーテル)や“White Deer”(共に名和氏の作品)と世界中から集められた植物が織りなす森が、静かな盛り上がりを見守った。  
©六本木アートナイト実行委員会

**2 【メインプログラム@東京ミッドタウン】**  
人と重力、時間と空間の関係性を表現した銀色に輝く“Ether”の下、光を放って孵化を待つ繭のように点在するものは、風船のオブジェを纏ったサボテンなどの多肉植物だ。  
©六本木アートナイト実行委員会

**3 【メインプログラム@国立新美術館】**  
溶岩が流れた後のように赤くライトアップされた丘。漂着した枯れ木やパイの中を、名和氏の作品“雲の荷車”を引く“風の民”が、生命の片鱗を乗せて彷徨う、神話の一節のような光景を表現した作品。©六本木アートナイト実行委員会



**4 【クラシックなラジオ体操】**  
早朝5:15開演、バロックから近代までの名曲を弦楽四重奏で鑑賞。その後トランペット2本を加えた厳かな伴奏によるラジオ体操で、今年のアートナイトを締めくくった。  
©六本木アートナイト実行委員会



**6 【どんでみる】**  
風船を纏わせ灯籠に設えた六本木交差点の時計塔、松や飛び石をあしらい、アートナイトの入口に見立てられた。

**5 【The Sound of Roppongi】**  
樹脂パイプや木材を繋げ、世界で集めた音を鑑賞者に体験させる参加型オブジェ。

## アートな麻布に魅せられて⑫ 六本木 アートナイト2016

六本木の街を丸ごとアートの会場にする六本木アートナイト。7回目を迎えた今年は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを文化面で盛り上げて行くイベントに位置づけられ、開催時期を春から秋に、会期も延長されて10月21日から23日の2昼夜半、足掛け3日間にわたって行われた。

テーマは『六本木、アートのプレイグラウンド“走る、回る、やってみる。”』

アートというと、美術館や劇場に出向き、絵画・デザイン・工芸・彫刻・伝統芸能などを鑑賞するものと思いがちだが、六本木アートナイトはそうした固定概念にとらわれない。六本木の街すべてが会場だ。この3日間は、美術館や六本木ヒルズなどの商業施設、公園や神社、路上など街のあちこちでアートが展開された。参加者が作品制作に加わるワークショップ、街頭で突然始まる寸劇、カフェでアーティストを交え熱く語り合うトークイベントなどなど、日常生活の場に居ながらにしてアートを楽しむことができた。一方、アーティストにとっても、作品目当てでない通りすがりの鑑賞者の素直な感想を漏れ聞く貴重な機会となった。作り手と受け手、双方が多様に交差する素敵な出会いの場、それも六本木アートナイトの醍醐味の一つだ。

### 出展作品は多種多様

メインプログラムは、今年メインアーティスト:名和晃平氏のインスタレーション(展示空間全体を使った3次元的表現)。六本木ヒルズと東京ミッドタウン、国立新美術館の3か所に文化の夜明けを象徴した“森”が作られた。メイン会場の六本木ヒルズアリーナでは、俳優の宮沢りえさんのほか、東北地方の伝統芸能や人間国宝の能楽師、東京スカパライズオーケストラ、ブラジルからのダンサーらも加わって、演出家の野田秀樹氏プロデュースによる同時開催プログラム「東京キャラバン in 六本木」が披露された。

近年、美術館や画廊のオープンが相次ぎ繁華街から“アートな街”へと変貌を遂げている六本木。日中だけでなく深夜から早朝までアートの魅力にどっぷりと浸ることができる六本木アートナイトを皆さんにも是非体験して頂きたいものだ。



**7 【東京キャラバン in 六本木】**  
(2点とも)撮影:篠山紀信



**8 【広がるワタシ、つながるアナタ パラフォークの世界へようこそ】**  
膨らむ服(パラフォーク)を着てその自在さを楽しむワークショップ参加者。

**9 【SAMURAI IN ROPPONGI!!!】**  
ヴァイオリン演奏と殺陣(たて)という異色のコラボレーションによる辻芸。

**10 【カンパニー・デ・キダム 語り高き馬】**  
白装束のパフォーマーが光り輝く馬に姿を変え、ダンスしたり観客と交流したりする夜間ならではのパフォーマンス。  
©六本木アートナイト実行委員会



**11 【アートトークイベント】**  
オープンしたてのモダンアートギャラリーで行われた作家と評論家によるトークイベント。  
©ShugoArts, Photo by Shigeo MUTO

**12 【ここから、アート・デザイン・障害を考える3日間】**  
スタイリッシュなスポーツ義足や障害を持つアーティストによるアート作品の展示、競技用車椅子の実体験コーナーなど障害者とアート、デザインをめぐる多様な展覧会。

**13 【車輪の人】**  
作者自身が会期中大車輪の中で走り続けた体を張った作品。初日は7時間通し、2日目は休憩1度きりで、鑑賞者の声援と拍手を糧に17時間を完走!

**14 【迷宮…閉幕後「海に還すプロジェクト」】**  
浄化の意味を持つ塩を盛り固める作業を5日間続け、床一面に迷路を描いた作品“迷宮”。最終日早朝、作家と鑑賞者が一緒になって作品を崩す。めいめいがその塩を持ち帰り、海に還すのだという。アート作品を壊してもよいという珍しい機会。砂場遊びを彷彿とさせ、編集委員もつい童心に返った。





麻布地区の南端、古川橋交差点ほど近くにある小川書店。長年にわたる教科書販売をはじめ、地域への文化貢献を担い続けて、96年に及ぶ歴史を重ねてきました。2代目社長の小川裕三さん、3代目社長頼之さん父子を訪ね、書店を舞台にした大正、昭和、平成の世の移り変わりを伺いました。

2代目社長(現会長)小川裕三さん談

創業は私の父親の代、大正9年です。野原の真ん中にポツンと建っていたそうです。平屋だったせいか、関東大震災の際も無事だったとか。私は昭和6年生まれ。子どもの頃は敵性スポーツとか言われながらも野球をするために青山方面まで足を伸ばしていました。練習中、近くの“麻布歩兵第三連隊”の鉄条網の中にボールが入ってしまったこともあり。訓練兵が投げ返してくれる際には「何やってんだ坊主」とばかり、冗談で鉄砲を向けられたこともあり。中学2年の時に終戦を迎えましたが空襲で家は丸焼け。目の前の古川沿い(建物はすでに建物疎開の為倒されていた)で、頭から布団をかぶって川の水に足を伸ばして命からがら助かったんです。火が道を這ってきた光景を怖い半分興味半分で見っていたのを覚えています。



20代の頃の裕三さん。本格的な登山家で、山小屋からSOSを受け、何度も人命救助に駆けつけたという。



戦後間もなく再建された小川書店店内。



都電が通っていた昭和40年代以前の古川橋交差点付近。真ん中の建物が小川書店。



裕三さんは長年の教科書販売の実績を評価され2006(平成18)年秋、黄綬褒章を受章された。

戦後は家族総出の人海戦術で木材運搬から始めて、半年くらいで店舗兼自宅を再建しました。しかし肝心の売本が無くなって、駆けずり回りました。私は中学生でしたが父親に命じられるがまま、出版社のある神田橋の方まで自転車で本を取りに出向きました。帰途、中央が高くなった反り橋の真ん中で自転車の積んだ本が全部落ちて散らばってしまったこともあり。まあ周りの人たちがすぐに手伝ってくれて助けられましたけどね。

ちなみに、民俗学者柳田國男は著書「炭焼日記」の中で裕三さんの父上に当たる初代社長小川勝蔵氏が自宅を訪れた時のことを記しています。「七月十八日水よう 午後晴 (中略)古川橋の古本屋小川勝蔵来、色々の本をもたせてかへす、よき商人と見ゆ。」昭和20年7月、未だ終戦直前のことです。大空襲にへこたれることなく小川書店再生に向けた初代社長の力強い商人魂が垣間見られます。

学校を出てから数年間は学校図書株式会社に勤め、その後、店を継ぎました。地元の学校向けに教科書販売を担っているのは先代が国定教科書を扱い始めて以来のつながりです。教科書販売というのは一般の書籍に比べて販売マージンは低く、半年近く在庫として保管しなくてはならず、繁華街の本屋さんには決してやりたがらない、どちらかといえば「うま味」のない商売ですよ。ただ、教科書販売を通じて中高生とふざけ半分で喋ったりするやり取りは楽しかったなあ。

3代目社長 小川頼之さん談

長年積み上げてきた結果が今の店頭姿です。バブル崩壊後、極端に減ってしまった子どもの数がこの頃戻ってきました。マンションが増えて人口が増えたんですね。教育熱心な方も多く、親子連れ向きの品揃えにも力が入ります。しかし、時代の趨勢として本屋は減っています。状況はひどいと言わざるをえない。最近の若い人は本を買わないですね、ネットから得る断片的な情報だけでは問題だと思うのですが。近隣の書店の閉鎖も耳にします。大型書店の出店で地元の小規模書店が潰れ、その後大型店舗は採算が合わないとすぐに撤退する。その結果、街に本屋が無くなる。日本中で起きていることです。そんなことでいいのでしょうか。図書館の充実を図るばかりでなく、



大手金融機関から転職して社長業を継いだ頼之さん。Webサイトも活用し独自の書籍情報を発信している。

行政の方にはこのような状況もしっかり認識いただきたいと思います。我々街の本屋は「文化に対して貢献したい」という自負心を持ってやっています。市場原理から言えばビルを貸した方が合理的だったりするのですが。店を継ぐことは街を継ぐことであり土地を継ぐこと、意識の中では渾然一体となっています。文字通り荷が重いですが、町内会のお祭りではお神輿も率先して担いでますよ(笑)。カフェの併設や雑貨販売などの多角化戦略もありますが、邪道かな。書籍自体の入れ替えて勝負していく王道を行きたいです。いつまで通用するのは日本語を操る人たちの意識次第ですけどね。

継続する強い意志に支えられてこそその貴重な書店空間なのだなあ、としみじみ感じました。変わりゆく街角で、小川書店は次回の東京オリンピックの年に創業100年を迎えることとなります。

●参考文献●  
柳田國男著「炭焼日記」 修道社 p283  
小川書店サイト <http://www.ogawashoten.co.jp>

(取材・文/大村公美子)

本屋のある街を守り続けて96年

麻布びと

未来へ残したい麻布の声



小川書店

おがわゆうぞう

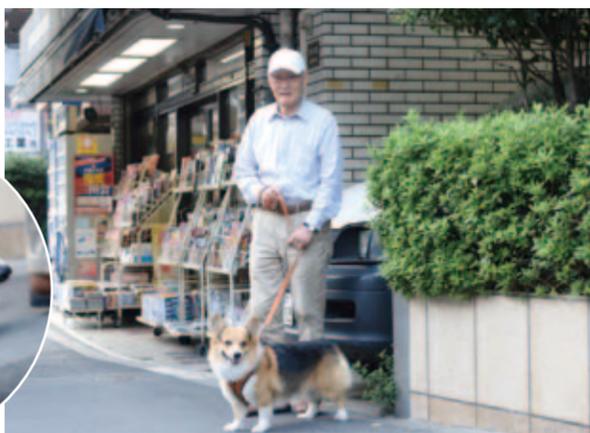
小川裕三さん

おがわよりゆき

小川頼之さん

(85)

(53)



愛犬ジローとの散歩は毎朝毎夕欠かさない。定番コースは有栖川宮記念公園。



参加者募集

# 坂カルタ大会を開催

主催のNPO法人あざ六プラスを紹介します!



2016年は港区政70周年を迎え、それにちなんだ事業を区が広く募集。あざぶ達人倶楽部をきっかけに誕生した、NPO法人あざ六プラスが提案した「オール港区坂踏破」及び、「坂カルタの制作」が対象事業として選ばれた。

## 現在8期生が学ぶ「あざぶ達人倶楽部」

麻布地区総合支所の地域事業のひとつである「あざぶ達人倶楽部」。麻布地域の文化、歴史を学ぶとともに地域活動を担う人材を養成する講座だ。麻布に興味を持てれば誰でも参加でき、室内で学ぶ座学、歩いて検証する歩学で構成される。講座終了後は、地域コミュニティの担い手としての活躍が期待されている。

「広報みなと」を通じて応募を呼びかけ、2009年に第1期生を迎え、2016年度は第8期生30名が学んでいて、既に300余名が巣立っている。

歩いて発見する歩学の楽しさに魅せられ、より多くの人たちと共有したいという想い

から、第1期生を中心に立ち上がったのが「NPO法人あざ六プラス」。法人名の『あざ』は麻布、『六』は六本木、さらにオール港区、近隣の区へも足を伸ばそうと『プラス』が付いている。毎月1回の街歩き実施の他、あざぶ達人倶楽部での歩学のナビゲーターも担当。さらにセミナー開催(2015年は『杉原千畝を知っていますか?』)、大使館訪問(リトアニア大使館)など活動は幅広く、港区観光協会にも加盟している。

## 88か所オール港区坂踏破は3月まで続行中

ご存知のように港区は坂の多い区で、文京区と双壁だ。区が発行した「まち探訪ガイドブック」(平成21年)では、88か所の坂名が明

記されている。これらを踏破しながら、坂のカルタを作ろうというプロジェクトを実施中だ。毎月、エリアを決めながら踏破中で、2017年3月まで坂踏破は続行される。実施日は土・日・祝日。麻布地区総合支所にチラシが置かれ、SNS(下記参照)で確認できる。

## 坂踏破の集大成「坂カルタ」

坂踏破と並行して進めているプロジェクトが、坂踏破の集大成『坂カルタ』の制作だ。坂踏破参加者の皆さんやメンバーで考えた坂カルタの句を、現在選別作業中だ。

2017年1月21日(土)午後1時より、麻布地区総合支所共催の元、麻布区民協働スペースにて「オール港区坂カルタ大会」を実施する。小学生からシルバー世代まで楽しめるカルタ大会に乞うご期待。どんな名(迷?)文句が採用されるかお楽しみに! 詳細は2017年1月上旬にホームページ、フェイスブック(フェイスブックをしていない方も閲覧可)にアップされる。

問合せ先 / aza6plus@gmail.com

●NPO法人あざ六プラス  
ホームページ <http://aza6plus.net>  
フェイスブック <https://www.facebook.com/aza6plus>



NHKの朝ドラが大ブレイクしたおかげで「花子とアン」の街歩きは8回、170余名を動員した。



リトアニア大使館、外交史料館の協力を得て実施した「杉原千畝を知っていますか?」のセミナーには100名以上が参加。



「杉原千畝を知っていますか?」の開催の縁で、大使館内でのセミナーが実現。

毎月エリアごとに坂踏破を実施中。

(文/高柳由紀子)

## 地域社会のゆくえ

21

# ありすいきいきプラザ 50歳以上参加OK 「いきいき教室・からだ元気」クラスに参加して

南麻布4丁目、有栖川宮記念公園の前にある『ありすいきいきプラザ』では、さまざまな講座が開催されている。中でも「いきいき教室」は港区在住の50歳以上ならだれでも参加でき、筆者もトレーニング続行中だ。その体験レポートをお届けしよう。

## 50代から90代まで、かなりしっかりと運動する

2年前この施設がオープンした時、筆者も50代に。その少し前から筋肉や栄養など身体に関することが気になり始めていた。これまでもスポーツクラブへ入会したことはあるが、徒歩圏になかったためか面倒になり、情けなくも続かなかつた。ありすいきいきプラザなら自宅から歩いて5~6分程度。見学に行ったところ、窓いっぱい公園の緑が見え、木をたっぷり使った館内は快適に感じる。そこで、時間の都合がつく「からだ元気」クラスに通い始めた。

施設の管理運営を行うのはセントラルスポーツ株式会社。指導員の原島寿美先生が担当するこのクラスでは、先生が考案した日常よく使う筋肉をバランスよく鍛えるプログラムを行っている。受講者の年齢層は広く、上は90代の方も。大半は女性だ。まずは上体をゆっくりとほぐしていくストレッチからスタート。「肩甲骨を動かして!

て!」「背筋、意識して!」と先生の声が響く。音楽に合わせてダンス気分で飛び跳ねる有酸素運動、そしてマットとバランスボールを使ったトレーニングへと続く。あっという間に1時間が終了。じわりと汗をかき、血流が良くなっているのを実感できる。

見まわすと、皆さん自分のペースでテキパキと動いている。お互いに声をかけあって和やかなムードだ。お話を伺ったところ、「ムリはしないようにと先生は言うけど、つい頑張ってしまう。楽しいから続けるのね。」「設備が整っているのが来るきっかけに。先生が一人ひとりを丁寧に見て下さいますね。」90歳の方は「長い坂道を通っていますが、それもいい運動です。昔からのお友達も一緒だから、その安心感も大きいよ。」本当にイキイキとした表情とお話しぶりが印象的だ。

## 散歩がてら一度、見学してみれば

こちらの講座は、直接申し込める「いきいき教室」と、区の高齢者相談センターへの問い合わせが必要な「みんなと元気塾」等からなる。エクササイズ以外にも英会話や水墨画、カラオケ、料理といった文化系教室がめじろ押しだ。



クラスが始まる前の血圧測定と用紙への記入は必須だ。



明るく開放的な雰囲気のある教室。椅子を使ったトレーニングで身体全体を伸ばしていく。



バランスボールに座って上下左右に動かすだけで、体幹を鍛えられる。

オープン当初は、貸室を含め、利用者はひと月に3000~4000人だったのが、人気もじわじわ高まり現在では8000人ほどが訪れるという。

平たく言えばここは高齢者福祉施設で、各講座は介護予防や高齢者のいきがづくり、ふれあい等を目的としている。となると、自分には関係ないと思われる向きもあろう。だがそれでスルーしてしまうには、ロケーション、内容ともにもったいないな、というのが筆者の感想だ。実は他の曜日に「いきいき教室・健康ヨガ」クラスも受講し、身体を動かす生活をエンジョイしている。

## 取材協力

ありすいきいきプラザ 館長 みのしまかずし 養島一司さん  
ありすいきいきプラザ 指導員 はらしますみ 原島寿美さん

ありすいきいきプラザ 港区南麻布4-6-7 ☎03-3444-3656  
<http://www.central.co.jp/plaza/alice/>



介護予防運動指導員 健康運動指導士 原島寿美さんから

「からだ元気」クラスは、言葉通り、心身健やかになってほしいとの願いを込めて始めました。毎回ほぼ同じ内容なので、動きを覚えて頂きやすくご自宅でも続けられると思います。日々の運動習慣こそが大切。筋肉がやわらかければ、痛みの解消にもつながりますね。より大勢の方のご来館をお待ちしています。



広々としたラウンジからは、有栖川宮記念公園の緑の景観を独占できる。



赤いレンガタイル張りの洒落た外観は、今や南麻布のランドマーク的な存在に。

(取材・文/田中亜紀)



イーホル・ハルチェンコ 駐日ウクライナ特命全権大使  
Dr. Ihor KHARCHENKO

ウクライナ  
面積:60万3700km<sup>2</sup> (日本の約1.6倍)  
人口:4520万人(2015年、世界銀行)  
首都:キエフ  
元首:ペトロ・ポロシェンコ大統領  
議会:ウクライナ最高会議(定数450名、任期5年)



参考:外務省ホームページ  
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ukraine/data.html>

取材協力/ウクライナ大使館

# UKRAINE

## 大使を訪ねて 37 麻布の"世界"から



かわいらしい民族衣装が似合うウクライナの女性。  
(写真家・稲田美織氏 提供)

### 古代から民族の交差点だったウクライナは 優れた血と文明が結集していた

1991年ソ連から独立したウクライナ。日本から遙か9000km、言葉も習慣も違う両国間には意外な共通点がある。今年赴任3年目になるイーホル・ハルチェンコ(Dr. Ihor KHARCHENKO)駐日ウクライナ特命全権大使(以下大使と表記)は、その詳細を語ってくれた。

#### 日本に似た懐かしい木造建築の風景

「ウクライナの地方には古い木造建築がありますが、その構造は日本のものと比べて驚くほど似ています。私たちは木造建築に対して、日本と同じような思いを持っているんですね」

日本との共通点について尋ねると、大使はそう語り始めた。ウクライナには西部のカルパチア地方の教会群を始め、たくさんの木造建築が点在している。例えば田舎町にある木造の橋の写真を見ていると、日本のどこかで撮ったのでは?そんな気がしてくる。橋の名も地名も日本ではなく、ウクライナなのに、何故かその風景は懐かしさを感じる。

「日本とウクライナは同じ農耕民族です。自然を愛し、自然と共存する精神はお互い小さな頃から培われてきましたね。」

その他に、日本人が何事にも挑戦する、その姿勢もウクライナ人と同じものを感じるようだ。ただ違うところは、日本人は何も言わず、一人で黙々とチャレンジを実行していくが、ウクライナ人は周りに話したり、騒いだりと、他人とのコミュニケーションをとりながら挑戦することが多いという。そして、日本人もウクライナ人も『頑固』な人が多いのも共通点、と微笑まれ、同席した全員が頷いてしまった。

#### 歩いて分かる、東京の街の魅力

大使が赴任された当初、まだ家族も来日されておらず、1人で東京の街をよく散歩されたそうだ。



外苑西通りから一步入った住宅街に佇む大使館。大使が好きな、東京にしかない魅力のあるエリアだ。

「車や電車を使ってでは街を感じられないので、歩くようにしていました。日本の方はとてもフレンドリーで、たとえ言葉が出来なくても通じ合えます。そして歩いて気づいた点は、東京は少し奇妙な街だということ。整備された大通りはきれいで、未来の姿を連想させるが、一步路地に入ると古い住宅が並んでいて、「不思議な感覚を抱くのと同時に、東京にしかない魅力を感じます。」

ルーマニア、ポーランド、イギリスで大使を務め、ニューヨークの滞在もあり、世界を渡り歩いている大使だが、東京だけの特別な魅力に満足されているようで、私たちも嬉しくなった。



#### ウクライナ美人とアスリートたち

ところで、ウクライナは世界一美人が多い国として有名だが、大使の見解は?

「ウクライナは古くから様々な民族が住んでいました。あらゆる優れた血が融合し、今のウクライナ人をつくってきたというのもその理由の一つだと思います。」前置きの後、大使の見解がさらに続く。

「個人的な価値観もあるでしょう。各人にはそれぞれの好みがあるでしょう。確かにウクライナは美人が多いですが、日本を含めてどこの国でも美人が多いです。第48代



ウクライナの夏はフルーツの季節。市場に並んだイチゴ、チェリーなどは格安で、とても甘い。(写真家・稲田美織氏 提供)

横綱の大鵬(1940~2013)の父はウクライナ人ですが、日本人の奥様を選びました。私の妻もウクライナ人ではなく、カザフスタン出身です。それに日本にも美しい人はたくさんいますよ。」

なんとという優しいお言葉。ありがとうございます! 大使。



前大使と懇意だった大鵬さんは、父がウクライナ人、母が日本人。ウクライナ大使館にも何度か訪れている。

一方、ウクライナに目を向けると、国を代表するアスリートたちで、日本はもちろん、世界のスポーツ界を賑わせた人物がいる。サッカーのシェフチェンコと棒高跳びのブブカだ。現在シェフチェンコは、ウクライナのアスリートチームの監督として2018年のロシアワールドカップ出場権獲得のため積極的に活躍し、ブブカは国際オリンピック委員会の理事として頑張っている。4年後の東京オリンピックで、ブブカの勇姿に会えるかもしれない。楽しみだ。

#### ウクライナのおふくろの味は「ボルシチ」

ウクライナ料理は私たちにはなじみがないが、ウクライナの首都、キエフが料理名としても使われている「キエフ風カツレツ」、「チキンキエフ」とも呼ばれる料理名は耳にしたことがあるだろう。バターまたは



キエフにある聖ミハイール黄金ドーム修道院。  
(写真家・稲田美織氏 提供)

バターにハーブ類を混ぜたものを、薄く広げた鶏肉に乗せてくるっと巻き、小麦粉、溶き卵、パン粉の衣をつけて焼くか、または揚げた鶏肉料理だ。チキンキエフはウクライナの伝統料理ではなく、キエフにある「コンチネンタル」というホテルのフランス人シェフが考案した料理だと言われている。

「ウクライナの伝統料理と聞かれたらほとんどの人がボルシチと答えます。ピーツなど7~10種を基本に約20種類の具材を使うのですが、その具材も味も家庭によって微妙に違います」。

日本の味噌汁にあたり、必ずピーツを使うボルシチは、まさにウクライナのお袋の味というわけだ。そしてこのボルシチこそ、ウクライナ発祥の伝統料理である。味噌汁と同様、朝昼晩、食卓にのぼると言っても過言ではないそう。大使は日本のスーパーで偶然ピーツを見つけて、ボルシチを作られたそうだ。ぜひ作り方を教えていただきたい。



ウクライナの国旗はブルーとイエローの2色に色分けされている。抜けるような晴天の青と、どこまでも続く小麦畑の黄色。かつてヨーロッパの穀倉と呼ばれたことがよく分かる。現在は穀類だけではなく、その肥沃な土地は鉄鉱石や石炭などの天然資源に恵まれていて、またその一方では世界遺産に指定されたペチェルシク大修道院やその他の教会の中には美しいイコンが飾られている。あまり馴染みのないイコンだが、もし日本で紹介する企画が出来れば、ラファエロ展やカラヴァッジョ展に並ぶほどの素晴らしい美術展になることは間違いのないだろう。



イースターの卵などを模倣した民芸品。木製で伝統的な花のモチーフが描かれている。(取材・文/畑中みな子、高柳由紀子)

実は今年は“再開発”というテーマを置いて麻布地区の坂を巡っているのだが、今回の“落合坂”もそのひとつ。静かに佇む麻布の奥地にはどんなエピソードが待ち受けているのだろうか？

# 麻布 未来写真館 人と心が行き交う坂 落合坂

## 坂名の由来から手繰る

港区の公式ホームページや現地の道標によれば「我善坊谷へ下る坂で、赤坂方面から往来する人が、行きあう位置にあるので、落合坂と呼んだ。位置に別の説もある。」とある。ところがこの落合坂の頂き(上手)には「行合坂」があるのだ。

ひょっとしたら昔は同じ坂名だったのか、「位置に別の説もある。」とはそのことを指しているかも知れない。やはり「諸説紛々」となるか…?と思ったが、ここで特段目を引いたのが『我善坊谷』という何とも厳つい地名。(落合坂から)脱線するようだが、俄然地名の由来が気になってきた。

## 旧町名「麻布我善坊町」から手繰る

明治東京全図(明治9(1876)年刊行)の地図によれば、確かに「ガゼンボウ丁」と記載がある。更に江戸切絵図を見ると、この界隈は「御先手組与力同心大縄地」とある。「御先手組与力同心」は今でいうところの“警察官”、「大縄地」は集団用地、現在の“官舎”にあたるものと見て良いと思う。

なるほど、谷間のこの場所はそうした集団用地に適していたかも知れない。

更に『御府内備考※』によれば、「龜前坊谷 龜前坊谷は、同所なり、上杉家の屋布の後の方なり、砂子云、崇源院殿御葬禮ありし時、龜前堂たちしところなりと、寛永記云、三年十月十八日大御臺所崇源院殿の御事なり、御葬禮増上寺におひて執行せらる、御葬送の場所は麻布野をもつて定らる、増上寺より御葬送場所御火屋までは、行程千間ありといへり、則この所なるべし、ことに此ところは原野の地にて人家まれなることおもひしるべし。改選江戸志」

これを訳すならば、崇源院殿(二代將軍秀忠正室・三代將軍家光の生母=浅井氏お江)の葬式は増上寺で行われたが、葬送の場所は麻布野と定められ、増上寺より葬送場所の火屋までは行程千間がいるといわれ、この谷で茶毘に付された。そのころは、原野で人家まれの地であった。ということになり、この「龜前堂」が転訛したものが地名となったことが見て取れる。勿論、これにも諸説あるため断定できるものではないかも知れないが、有力な一説としての証拠にはなり得るのではないだろうか？

更に前述の明治東京全図を見ていて、もうひとつ気になったことがある。今度は人名だ。

## 和宮親子内親王

我善坊町右上に「麻布市兵衛町十一番 静寛院宮」と記されているのがおわかりいただけるだろうか？これは第14代將軍・徳川家茂の正室、和宮親子内親王(皇女和宮)である。徳川家2代將軍正室が茶毘に付され、14代將軍正室の落飾後の住まいとなった場所がほぼ真隣りになったことは、奇妙な偶然、不思議な縁を感じずにはられない。

落合坂には実はとんでもないエピソードが大量に埋蔵されているのではなかろうか？

区内でも珍しい(谷間でありながら)非常に緩やかな坂には、歴史の偶然が、いやドラマが生まれていたのかも知れない。黙して語らぬ静謐たる佇まいに、新たなる関心が沸き起るのを留めることは難しそうだ。

※江戸幕府が編集した江戸の地誌、1872(明治5)年の皇居火災で焼失してしまっただが、編纂の備考として整理された資料集が『御府内備考』として残された。

## 参考文献

石川悌二 「江戸東京坂道事典」(新人物往来社) 増補港区近代沿革図集 麻布・六本木

※昭和50(1975)年及び昭和59(1984)年の落合坂は、写真撮影:田口政典氏、写真提供:田口重久氏によるものです。



昭和50(1975)年:「落合坂上から」



平成25(2013)年



昭和59(1984)年:「落合坂 坂標柱近景」



平成25(2013)年



平成28(2016)年 落合坂下より、坂上をのぞむ。とてもなだらかなことがおわかりいただけると思う。写真右側には「我善坊駐車場」の標記が確認できる。



「御先手与力同心大縄地」が「我善坊谷」を指し、そのど真ん中を貫く形で落合坂がある筈だが…。この当時は「坂」としての存在ではなかったかも知れない。「上杉弾正大弼(米沢藩中屋敷)」は現在の外務省飯倉館と麻布郵便局。(「港区近代沿革図集 麻布・六本木」より。)



明治東京全図(明治9(1876)年刊行)



現在の落合坂周辺

## 「麻布未来写真館」とは

港区麻布地区総合支所では、平成21年度から区民や企業等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を運営しています。

当事業は、麻布地区の資料収集・保存を通じて、住民の方々にとって身近な歴史・文化的な資料価値を持つ写真を保全・継承し、より一層活用することを目的としています。同時に、まちの歴史や文化をより多くの方々(いっしょ)に知っていただき、まちへの愛着を深めていただく一助となることを目指しています。

## 「麻布未来写真館」では、古い写真を探しています。

未来に向けて、残し、伝えていくべき「麻布地区の古い写真」がありましたら、港区麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当までお問合せください。

お問合せ 電話:03-5114-8812



## アークガーデンでバードウォッチングをしてみよう！ みんなでエコっとプロジェクト 第2回目参加者募集！

“環境やエコ”をテーマとして「見る」「知る」「体験する」機会を提供し、地域の子どもたちが自然や生きものを大切にしていける心や育んでいく取組として、「みんなでエコっとプロジェクト」を平成27年度から実施しています。

第2回目は、舞台を赤坂アークヒルズに移し、アークガーデンでバードウォッチングを行い、みんなが好きな鳥を描きます。  
美しいガーデンで散策を楽しみながら、緑の大切さを知ってみよう。

- 日時** 平成29年1月29日(日)午前10時～午前11時30分まで
- 場所** 赤坂アークヒルズ(赤坂1丁目12番32号)
- 内容** 自然観察及びバードウォッチングとスケッチ
- 定員** 区内在住の親子15組(応募多数の場合は抽選)
- 参加費** 無料 ※ 双眼鏡は貸出します。
- 申込方法** (1)住所(2)氏名(3)年齢(4)電話番号を記入の上、直接又は郵送・FAXで、〒106-8515 港区六本木5-16-45 麻布地区総合支所協働推進課まちづくり推進担当へお申込みください。
- 申込期限** 平成29年1月16日(月)
- 協力** 森ビル株式会社
- 備考** 天候状況によりプログラムを変更する場合があります。

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課まちづくり推進担当  
電話／03-5114-8815 FAX／03-3583-3782



11月3日の様子(有栖川宮記念公園)



バードウォッチングの様子



## 平成28年度臨時福祉給付金及び障害・遺族基礎年金受給者向け給付金(年金生活者等支援臨時福祉給付金)のお知らせ

消費税率の引上げに伴う負担を軽減する措置として「臨時福祉給付金」を、低所得の障害・遺族基礎年金受給者への支援として「障害・遺族基礎年金受給者向け給付金(年金生活者等支援臨時福祉給付金)」を、それぞれ支給しています。

対象となる方には、9月26日(月)に申請書を発送しました。申請受付は平成29年1月13日(金)までとなりますので、申請がお済みでない方はお早めにご申請ください。

### 対象者及び支給額

	臨時福祉給付金	障害・遺族基礎年金受給者向け給付金(年金生活者等支援臨時福祉給付金)
対象者	平成28年1月1日時点で港区に住民票があり、平成28年度分の区民税(均等割)が課税されていない方 ※区民税が課税されている方の扶養親族等や生活保護制度の被保護者は対象になりません。	平成28年度臨時福祉給付金対象者のうち、平成28年5月分の障害基礎年金・遺族基礎年金等を受給している方 ※高齢者向け給付金を受給した方は対象になりません。
支給額	対象者1人につき3,000円	対象者1人につき3万円

\*障害・遺族基礎年金受給者向け給付金については、年金機構からのデータを基に申請書を発送しましたが、一部の年金受給者の方はデータに反映されていないため、障害・遺族基礎年金受給者向け給付金用の申請書を送付することができていません。支給対象者と思われる方で申請書が届いていない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。

**申請方法** 申請書に必要事項を記入の上、必要書類を添付し、同封の返信用封筒でご返送ください。直接提出する場合は、以下の臨時受付窓口にお越しください。

●芝地区総合支所(港区役所内) 平成29年1月13日(金)まで

※受付時間 平日(土・日曜、祝日を除く)午前8時30分～午後5時(水曜日のみ午後7時まで)

お問合せ／保健福祉支援部保健福祉課臨時福祉給付金担当  
電話／03-3578-2846

給付金に乗じた振り込め詐欺や個人情報の詐取にご注意ください。

## 都税事務所からのお知らせ

### 12月は固定資産税・都市計画税第3期分の納期です(23区内)

12月27日(火)までに、納付書裏面に記載されている金融機関、コンビニエンスストア等でお納めください。納税には、安心して便利な口座振替をご利用ください。パソコン・スマートフォン等からクレジットカードでも納付できます。詳細は、HPまたは下記問い合わせ先へ

お問合せ／

- 課税 港都税事務所 固定資産税班 電話／03-5549-3800(代表)
- 納税 港都税事務所 徴収管理班 電話／03-5549-3800(代表)
- 口座振替 主税局徴収部納税推進課 電話／03-3252-0955

### 年末年始における窓口業務のご案内

都税事務所・都税支所・支庁、都税総合事務センター・自動車税事務所での都税の申告・納税・証明等の事務の取扱いは、年末は12月28日(水)まで、年始は1月4日(水)からとなります。12月29日(木)から1月3日(火)までの間に申告書・申請書を提出する場合は、都税事務所・都税支所などに設置している「申告書等受箱」をご利用ください。

お問合せ／港都税事務所 電話／03-5549-3800(代表)

## 麻布消防署からのお知らせ

### 大掃除の機会に「家具転」をしましょう

今年も残すところあと少しとなりました。すでに年末の大掃除を始められた方も多いのではないのでしょうか。大掃除は普段動かさない家具類を動かす良い機会です。この機会に「家具転」してみてもはいかがでしょうか。

#### 「家具転」とは

「家具転」とは、地震の揺れでケガ等をしないために、家具や家電などを固定したり、落下防止をしたりする、「家具類の転倒・落下・移動防止対策」の略称です。地震による家具転倒の発生は、ケガや避難障害、火災など様々な危険につながる可能性が大いにあります。それらを防ぐ家具転は、地震からご自身や家族を守るために、今からでもすぐにごできる「自助」の第一歩です。そして、家具転の効果でケガなどを防ぐことができれば、次に皆さんは、隣近所や地域の方々と共に協力し、お互いに助け合う「共助」の行動をとることが可能になります。



### 地震から大切な命を守るために、家具転を実施しましょう

お問合せ／麻布消防署  
電話／03-3470-0119



# 港区麻布地区総合支所だより



老若男女・外国人の方も誰でも参加できる体験型スポーツイベント

AZABU YURU SPORTS UNITED

## 麻布ゆるるスポーツユナイテッド

参加費  
無料

### ゆるるスポーツとは?

ハンドソープを手につけツルツルすべりながらハンドボールを行う「ハンドソープボール」、芋虫のようにゴロゴロ転がりラグビーを行う「イモムシラグビー」、こたつに座り湯呑を使ってエアホッケーを行う「こたつホッケー」等、老若男女、スポーツが得意な方も苦手な方も、誰もが「ゆるく」楽しむことができるスポーツです。

詳しくは



### ご参加お待ちしております

今回行う「ゆるるスポーツ」は、「国際交流」をテーマとし、多くの皆様に体験していただくことにより、外国人も日本人も、皆がひとつになれるイベントです。

イベントでは、一般応募で参加された方々が作った「親子でできるスポーツ」「座ったままでできるスポーツ」「チーム参加も可能な球技スポーツ」等、新しい「ゆるるスポーツ」を体験いただけます。みなさんも「ゆるるスポーツ」を一緒に体験しませんか?



港区公式HP

平成29年1月15日(日) 13時30分～16時

対象 どなたでも(外国人の方も含む)

参加方法 当日直接会場へお越しください。

#### 注意事項

- 雨天時は、体育館で実施しますので、必ず室内履きをご用意ください。 ※雨天時は、体育館で実施します。
  - 運動着又は、運動しやすい服装でお越しください。
  - 各競技には、対象年齢が設けられています。
  - 貴重品等の盗難・紛失は責任を負いかねます。各自で管理をお願いします。
  - 英語通訳が必要な方は1月12日(木)までにご連絡ください。
- 連絡先(英語対応可) / みなとコール03-5472-3710

場所 東町小学校(港区南麻布1-8-11)

※雨天時は、体育館で実施します。

#### プログラムスケジュール(予定)

13:30～	開場・受付 各競技スタート(随時体験可能)
13:45頃～	チーム対抗競技(1回目)開始
14:55頃～	チーム対抗競技(2回目)開始
16:00	各競技終了・閉場



お問合せ / 麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当 電話 / 03-5114-8812

## 麻布地区「港区政70周年・総合支所制度10周年」記念イベント つなげ! 未来へ“AZABU”の魅力

港区政70周年・総合支所10周年を記念し、保育園児によるパフォーマンスや麻布地区の魅力を語り合うパネルディスカッションなどのイベントを開催します。

日時 1月7日(土) 13時30分～16時(13時開場)  
会場 麻布区民センター 地下1階 区民ホール (港区六本木5-16-45)

#### 内容

- 記念植樹の紹介
- タイムカプセルセレモニー
- 麻布地区の保育園児によるパフォーマンス  
麻布地区の保育園児による「キッズソーラン」を披露します。
- パネルディスカッション  
麻布地区の昔の貴重な写真などをスライド上映しながら、麻布地区の魅力について語り合います。麻布に縁の深い方がパネリストとして登場します。
- 地域コミュニティ活性化事業「ミナヨク」  
コミュニティデザインアイデア発表会  
若い世代の区民が、麻布のまちを良くするアイデアを発表します!



対象 区内在住・在勤・在学者  
定員 100名(申込順)  
参加費 無料  
申込み 電話で、1月5日(木)までにみなとコール(9時～17時受付)へ申込みください。

みなとコール / 03-5472-3710

※保育(4か月～就学前、5人程度)を希望する方は、12月21日(水)までに、申し出ください。

お問合せ / 麻布地区総合支所

管理課 電話 / 03-5114-8811  
協働推進課 電話 / 03-5114-8812



買い物  
するなら  
地元の  
商店街で

ザ・AZABUへの  
ご意見・ご要望を  
お寄せください



ご住所・氏名・職業(学校名)・電話番号・ご意見・ご要望(日本語又は英語、字数・様式自由)を書いて、直接又は郵送・ファックスで、〒106-8515 港区六本木5-16-45 麻布地区総合支所 協働推進課 地区政策担当へ。

●電話 / 03-5114-8812 ●FAX / 03-3583-3782

編集委員を  
募集して  
います

地域情報紙「ザ・AZABU」は  
ホームページからも  
ご覧いただけます。



「ザ・AZABU」は英語版も発行しています。

### ザ・AZABU

●配布設置場所ご案内  
六本木1丁目、六本木、広尾、麻布十番、赤羽橋の各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書館、南麻布・ありす・麻布・西麻布・飯倉の各いざいきプラザ、麻布区民センター、麻布地区総合支所等

●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

Chief 田中亜紀  
Sub Chief 高柳由紀子  
Staff 出石供子 関口 誠  
石川味季 田中康寛  
大澤佳枝 寺尾周祐  
大村公美子 森 明  
加生武秀 畑中みな子  
加生美佐保 山下良蔵  
小池澄枝 渡辺久剛  
下地麻由子

#### 編集後記

ザ・AZABUの編集のお手伝いをさせていただき1年になります。仕事の合間なので、なかなか時間が取れませんが、自分の会社や自宅のあるエリアの歴史を知ることができたり、麻布地区には大使館が多いので、普段お会いできない大使とお会いできたり、とても貴重な経験をさせていただいています。まだまだ、記事を書く自信はありませんが、できる時間に細々とお手伝いさせていただこうと思っています。(石川 味季)

#### 「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします!

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽に問合せください。年中無休 / 午前7:00～午後11:00 ※英語での対応もいたします。

電話 / 03-5472-3710 FAX / 03-5777-8752  
Eメール / info@minato.call-center.jp

“Minato Call” information service  
Minato call is a city information service, available in English every day from 7 a.m. - 11 p.m.  
Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752; E-mail: info@minato.call-center.jp